

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立日新小学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日 令和8年4月23日（木）

（注）質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年 小学校第6学年

調査の内容

（1）教科に関する調査

国語、算数

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。

② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

（2）質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

・全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。

・また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」です。

したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。

質問
調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

質問 番号	質問事項	本校 (%)	全国 (%)
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	78.2	77.6
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	81.8	85.7
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	90.9	91.4

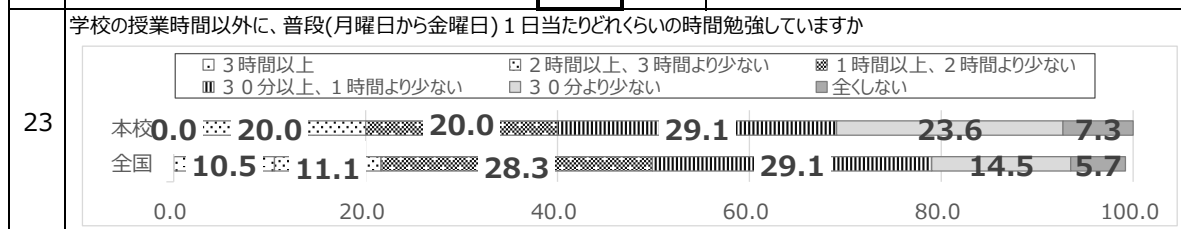
本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

◎ 分からないことや詳しく知りたいことがあるときに、図書館を利用する、パソコンを用いて調べる、友達や家族とともに話し合う等、目的や内容に合った方法を考え取り組むことができている。

● 交流は進んで行っものの、伝達で終わることが多い。自分と相手の考えやその理由を比較したり整理・分類する活動を通して、自分の考えを深めたり新しい見方・考え方に気付く力を身につけていく必要がある。

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	81.8	79.4
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	78.2	78.4



《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	80.0	85.6
10	将来の夢や目標を持っている	72.7	81.8
15	学校に行くのは楽しいと思う	81.8	85.7
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	94.6	92.5

本校の調査結果 ※◎（強み）、●課題

◎ 人の役に立ちたいと考える児童が多い。学習や生活場面において、自分にできることを探し相手へ働きかける姿が多くみられる。

◎ 地域行事に保護者とともに参加している様子が見られ、地域との親和性が高い。

● 自己肯定感を高めることで、学校への愛着が深まり、夢・目標をもって生き生きと学校生活を送ることができる考える。

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	100.0	95.8
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	80.0	80.1

調査結果を受けて

【学校では】

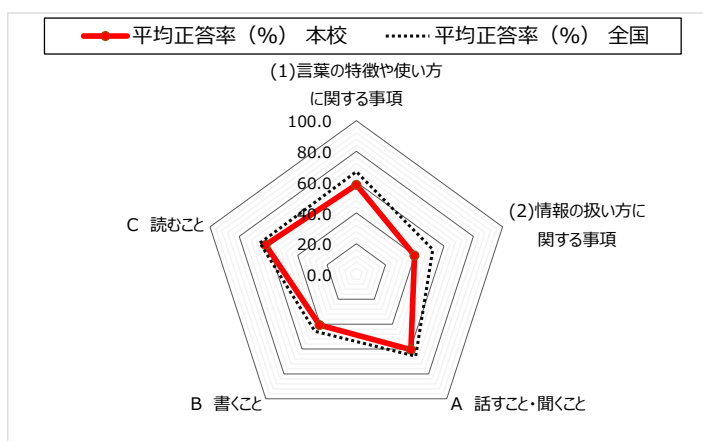
- 自己選択・決定の場面を大切に授業づくり、授業改善を行っていきます。
- 子ども自身が対話を通して納得解を見だしていく経験を大切にします。その際、考えの伝達にとどまらず、自分と相手の考えの共通点や相違点に着目し、新しい考えが生まれ対話の必要性を感じられる授業づくりを進めます。
- 「ほかほかカード」の活動を中心に、自己有用感や自己肯定感を高め、安心して学校生活を送れるようにします。

【ご家庭では】

- 「尊重」の力を育むために、お子さんが困っているときには、大人の伴走支援（①どうしたの？②あなたは どうしたい？③私に何かできることはある？）で関わるのが大切です。
- 家庭学習は学校の授業とつながっています。家庭学習が自分のための学習となるように意識し、計画的に取り組むことが大切です。お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が更に高まります。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	58.3	66.8
	(2)情報の扱い方に 関する事項	39.8	52.3
思考力、 判断力、 表現力 等	A 話すこと・聞くこと	60.5	65.8
	B 書くこと	40.7	45.7
	C 読むこと	62.0	65.9



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	54.7	61.9
短答式	51.9	62.6
記述式	51.9	54.9

結果 ※○ (強み)、●課題

- ◎ 文章を読んで理解したことに基づき、自分の考えをまとめる問題については解答することができている。無解答率も全国に比べて低く、課題に取り組む意欲もある。
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく使いこなす力が必要である。
- 「情報の扱いに関する事項」に対する正答率が全国と比較して12.5ポイントと低い。文章や資料の情報を条件に合わせて抜き出したり、抜き出した情報と自分の考えを関連付けて表現したりする力を身につけていく必要がある。

《正答率の高い問題》【強み】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1ー	相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができるかどうかをみる	70.4	73.9
3三 (2)	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	74.1	76.4

《正答率の低い問題》【課題】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2三イ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	29.6	45.2
2四	引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	29.6	33.5

調査結果を受けて

【学校では】

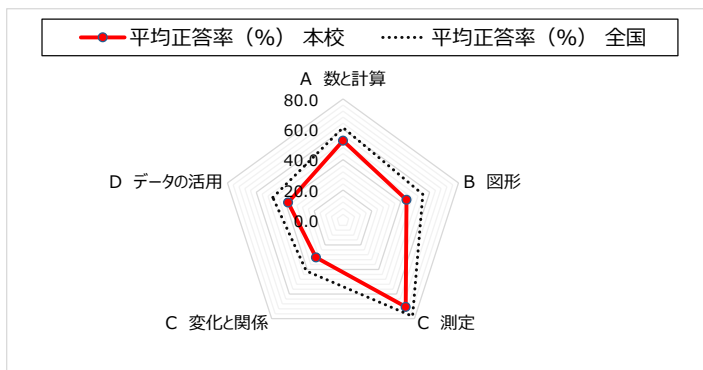
- 学習時間に限らず、普段から漢字を使って文章を書く時間を設けていきます。それに併せて、読書に親しむよう促すことで語彙力の向上を図ります。
- 課題や目的、表現の意図に応じて、叙述を引用したり自分の考えを表現したりする機会を設けます。また、表現したものを相手と読み合ったり、伝え合ったりする活動を通して、文章を推敲する力を高めていきます。

【ご家庭では】

- 読書を大切にしていましょ。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。図書館や本屋等で、様々なジャンルの本に触れることをお勧めします。
- 絵日記や感想文など、文章を書く際には、既習の漢字を進んで使うようお声掛けをお願いします。わからない言葉があるときには、辞書や辞典を用いて、様々な言葉に触れる機会を設けてみてはいかがでしょうか。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と計算	52.5	61.1
B 図形	44.0	55.3
C 測定	70.4	78.1
C 変化と関係	30.2	41.1
D データの活用	38.0	48.6



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	50.7	56.0
短答式	53.2	59.7
記述式	32.1	48.5

結果 ※◎ (強み)、●課題

- ◎立方体の体積を計算によって求めたり、条件に合う小数をつくり出す問題は正答率が高い。
- 問題に対する答えは書けるものの、その理由を式や言葉等を用いて表すことに課題がみられる。
- 二次元表等の複雑な表から、条件や目的に合わせて情報を抜き出す力を身につけていく必要がある。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1 (1)	立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる	75.9	72.7
3 (1)	小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることができるかどうかをみる	90.7	94.5

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1 (4)	日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	18.5	45.2
4 (3)	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる	13.0	17.9

調査結果を受けて

【学校では】

- 基本的な問題を繰り返し行うことで、基礎・基本の定着を図ります。
- 問題に取り組む際には、答えを出した過程を図や式、言葉等を用いて表し、友達と交流する場を設定します。交流を通して、表現方法を見直し、様々な見方や考え方を獲得できるようにします。
- 日々の指導の中で個々のつまずきを見つけ、指導・支援に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんのノートやプリント等の宿題の様子、テストをご覧になって、お子さんの学習状況を知るとともに、取組状況や成長に目を向け、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 買い物や料理、旅行の計画（電車賃や時刻表の読み取り等）等をお子様と一緒に取り組む中で、数量感覚が養われます。教科書の問題から抜け出し、生活課題の中で算数の考え方を使うことをお勧めします。